

13 介護保険制度下における要介護高齢者の現状 —新潟市真砂地区を中心とした15年間の追跡—

本間和代

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 介護保険, 要介護者の実態, 真砂地区, 15年間の追跡

はじめに

平成12年4月の介護保険法施行に向けて、(財)歯友会は歯科衛生士を基礎資格とする介護支援専門員による居宅介護支援事業所を平成11年10月に開設した。その前年より「介護支援専門員を目指す受験講座」を開講して、平成21年までの12年間に保健医療福祉職939名が受講した。当事業所の4名の介護支援専門員は新潟市より委託された161名の高齢者の準備調査を行い、ケアプランを作成して施行日より支援業務を開始した。以来、15年間、演者が担当した要介護者の支援開始より現在に至るまでを追跡し、介護保険制度下における高齢者の現状を把握して、歯科の果たす役割を再考することを目的とした。

対象：平成11年10月より27年11月まで認定調査および居宅介護支援に関わった新潟市真砂地区他要介護者50名（男17名、女33名）である。

方法：対象者の認定調査および介護支援記録より、要介護者の①年代・世帯の状況、②介護支援期間、③要介護状態となった原因疾病、④介護サービス利用状況について調べた。

結果および考察

対象者のうち、認定調査のみ実施した者が9名(18%)、介護支援を行った者が41名(82%)である。

1. 要介護者の年代および世帯の状況

対象者は明治生が20%、大正生が33.3%、昭和生が46.7%を占め、2世代同居世帯が最多の34%であった。

2. 介護支援期間

介護支援期間は平均3年9か月で、3年未満が55.8%、3年以上10年未満が30.2%、10年以上が14%で、15年間に多くの要介護者は死亡したが、現在、支援を継続している者は8名である。

3. 要介護状態となった原因疾病

対象者の多くは複数の疾病を有し、複数の医療機

関を受診しているが、その中で要介護の直接的原因となった疾病は、図に示す通り、脳血管疾患が34.9%の最多で、骨格系疾患、認知症と続いた。

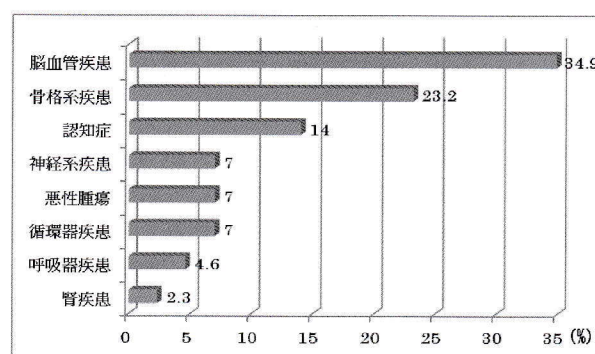


図 要介護状態となった主たる原因疾病 (n=41)

4. 介護サービス利用状況

利用したサービスは、福祉用具貸与が28.4%と最多で、つぎに短期入所23.4%、通所介護14.8%、訪問介護13.6%と続いた。

以上より、真砂地区等においては2・3世代同居世帯が60%と多く、比較的恵まれていた。また、介護支援期間が平均3年9か月と短いことは、要介護状態が進み、入院または入所することを意味しており、介護予防の難しさが伺える。要介護の原因疾患として脳血管疾患が多かったことは、成人期の生活習慣病予防が課題であり、歯科疾患の予防や食育・禁煙支援等による健康維持が重要で、認知症やがん予防にも繋がると考える。サービスの利用には、家族構成や住宅環境、気候、地形も影響していると思われる。

まとめ

要介護者の実態と介護保険制度の現状を知ることにより、益々、高齢化率が高まる近い将来において、健康長寿の取組みが急務であり、そのためには、口から食べて健康を維持するための歯科的支援が重要である。